

# 歴民だより

第28号 (令和2年1月)

《発行》

新座市立歴史民俗資料館

住所

片山一丁目21番25号

電話

048-481-0177

FAX

048-481-0149

Eメール

rekimin@city.niiza.lg.jp

文化の日 特別講座

令和元年11月3日(日・祝)開催

## ～禅の教えから学ぶ日常生活～



平林寺第二十五世

松竹寛山老師



歴史民俗資料館 展示室にて講演

平林寺第二十五世

平林僧堂師家 松竹寛山 老師

平林寺の松竹寛山老師をお招きして、前半は平林寺が創建の地である岩槻から新座・野火止の地に移った経緯について、後半は臨済宗の修行についてご講演いただきました。

江戸時代、武蔵野の新田開発や野火止用水の開削を進めた川越藩主の松平信綱と平林寺移転について、また、修行者である雲水うんすいの一日一朝は3時半に始まり「坐すわって半はん畳、寝ねて一いっ畳」という生活、天井が映るほどお粥かゆが薄うすいことから「天井粥」とも呼ばれるような食事の様子などをスライドを映しながら、お話しいただきました。

一時間半に及ぶ講演でしたが、「お話しをもっと聞きたかった」という感想が多く寄せられました。

平林僧堂へいりんそうどう(専門道場)は、雲水うんすい(修行者)が専門に坐ざ禅修行をおこない、老師らうし(師家)の指導を受けるところところです。臨済宗りんざいしゅうの専門道場は全国に約四十カ所あります。

松竹老師は、釈迦しゃか、達磨だるま、臨済りんざい禅師と脈々と続く仏法を継いだ臨済宗を代表する禅僧です。

平林寺では老師が「平林寺住職」と「平林僧堂師家」を兼ねて、雲水の指導にあたります。

「老師」は「師家」の尊称です。平林寺は、創建以来実に六百年の永きにわたり禅の法灯を今に伝えていきます。

# たこてん 日本のお正月に 凧展

かいさいちゆう  
2月16日(日)まで開催中

絵本作家であり、凧に関する著書を多く手が  
けられた故新坂和男氏が収集・創作した日本各  
地の凧を展示しています。

歴史民俗資料館に入ると約90点の凧が色鮮  
やかに賑々しく迎えてくれます。

右の写真の上方にある「津軽凧」。青森県の凧  
で、太い描線と華やかな色彩、紫紺の粋に縁ど



↑  
津軽凧



ばらもん

られた角凧が特徴です。画面いっぱい大きく描か  
れた大首絵の迫力ある筆致に圧倒されます。

左の写真は長崎県の「ばらもん」。ツノがでてい  
るところに特徴があります。鬼がかみついて兜を後か  
らみたものが図案化され、装飾性の強いものに変化  
しました。南方文化と日本文化の混ざりあった異国  
情緒が感じられます。

他にも、目玉がクルクル回る猿の凧や、北海道の  
「いかのぼり」など、姿も名前も愛らしい凧が多く  
飾ってあります。

寒くなり、出かけるのが少し億劫ですが、凧をみ  
て温かく楽しい気持ちになりませんか。

## 【参考文献】

- ・新坂和男『絵凧の技法』美術出版社 1987年
- ・同『やさしく作れる 日本の凧』ぎょうせい 1986年

## 親子で土偶を作ろう!

12月1日(日)に開催した講座では、令和2  
年の干支”子”の土偶を親子で作りました。

作りたいものを試行錯誤しながら形にしてい  
く楽しさと難しさを身をもって感じているよう  
でした。「粘土に触れたのは学生のおとき以来。こ  
んなに楽しいなんて!!」という大人の声もありま  
した。親子で切磋琢磨、創意工夫し合う講座とな  
りました。



大熊手  
展示中

## ～繭玉飾り～

1月15日の小正月に繭玉  
を飾ります。お米の粉で繭や  
野菜の形をしたものを作り、  
ナラの木などの枝にさして、  
豊作を願ったものです。

